

電力部門ご案内(予定)

課程	科目	教科内容	会場	開催月	日数	本体価格 消費税(10%) 税込価格	
						会員	非会員
基礎	き電・変電技術	電気鉄道の仕組みや直流・交流き電回路の概要等き電・変電技術全般にわたって基礎技術を学習する。	東京	6月	2日	13,700円	16,100円
			大阪サ			1,370円	1,610円
	電車線技術	電車線路設備の概要及び保全に必要な基礎的学習を行い、保安全管理に携わる新規職員必修の基礎技術を学習する。	東京	7月	3日	29,100円	34,200円
			大阪	9月		2,910円	3,420円
			東京	7月	32,010円	37,620円	
	電灯電力技術	鉄道の電灯電力設備の概要と設備の在り方、受配電設備から負荷設備まで、全般にわたって基礎技術を学習する。	東京	8月	4日	40,700円	48,100円
大阪			10月	4,070円		4,810円	
			大阪	11月		44,770円	52,910円
普通	変電設備の設計	変電設備設計の概要、工事設計の手順と留意点等設計に必要な実務技術を学習する。	東京	8月	2日	15,300円	18,100円
	直流変電所とき電回路	電気鉄道における直流変電所の基本的な構成とき電回路の故障と保護、および変電所の接地と雷対策等実務的な技術を学習する。	東京	10月	3日	1,530円	1,810円
			大阪	11月		2,060円	2,370円
	高調波対策	直流変電所における高調波問題に関し、発生原因から抑制対策まで、計算例等をとおして対策技術を学習する。	東京	9月	1日	16,830円	19,910円
			大阪	11月		6,700円	7,800円
	電車線路の設計	電車線路設備の設計に携わる中堅技術者のための主要な関連規程、設備の要点、設計に必要な技術計算等実務を学習する。	東京	780円	3日	7,370円	8,580円
大阪			9月	30,000円		35,000円	
電車線路の保全	電車線路設備の保全に携わる中堅技術者のためのき電回路の基本構成、架線系の機能、事故例とその対策について学習する。	東京	10月	2日	3,000円	3,500円	
		大阪	11月		33,000円	38,500円	
配電・電灯電力設備の設計	配電・電灯電力設備の概要、設計業務の流れ、工事設計の手順・留意点、支持物強度計算等設計に必要な技術を学習する。	東京	4月	2日	18,000円	21,100円	
			大阪	11月		1,800円	2,110円
			東京	5月	3日	26,840円	31,350円
高等	電気車の運転・電力曲線画法の基礎理論【変電・電車線共通】	電鉄変電所・電車線路の設備容量計算に必要な、電気車のノッチ曲線の見方・電流一引張力の読み取り方と運転・電力曲線画法およびインバータ車両の基礎的性能を把握し、その応用例として、電力量・電力消費率等の算出法を専門的に学習する。	東京	9月	1日	8,400円	9,500円
			大阪サ			840円	950円
	電車線路電流量の計算【電車線主体】	電車線路電流量の計算に必要な直流・交流インバータ制御車のインバータ装置の変換効率を考慮したパンタ点電流の算出法およびトロリ線温度上昇の直接計算法(シミュレーション)とRMS電流法(2乗平均の平方根)の両算出法を専門的に学習する。	東京	8月	1日	9,240円	10,450円
			大阪サ			7,000円	7,900円
	き電回路の絶縁設計と直流き電回路の保護【変電・電車線共通】	電気鉄道のき電回路に発生する異常電圧の概念と避雷器によるき電設備の絶縁設計の基本的な考え方について、直流回路、交流回路(新幹線)のそれぞれの構成を学習する。さらに直流き電回路について電力設備事故の様相とその保護方式を俯瞰し、保護回路に関し鉄道事業者間の違いや解決しなければならない技術について学習する。	東京	11月	1日	7,700円	8,690円
			大阪サ			700円	790円
電車線路の支持物強度計算	強度計算の手順、力の合成と分解・応力、断面2次モーメントと断面係数、荷重の種類、鋼材の性質、設備の形と計算例、応力検定・たわみ計算、門型構造の計算、以上電車線路の支持物強度計算方法の要点を学習する。	東京	7月	4日	27,100円	31,000円	
					2,710円	3,100円	
					29,810円	34,100円	
鉄道電気セミナー	会員の技術向上を目的に、鉄道電気の最新的话题を提供する。	東京	9月	1日	12,400円	14,100円	
		大阪	9月		1,240円	1,410円	
					13,640円	15,510円	

凡例 ・会場の「大阪サ」は大阪会場でのサテライト式講習会です。

注釈 ・「電車線路の支持物強度計算科」は、令和3年度より3日開催から4日開催に変更しています。